

国土交通省総合政策局
情報政策課交通統計室
平成25年3月4日(月)公表

トラック輸送情報

平成24年12月分

平成25年1月分は4月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 中倉 (課長補佐) 28-721

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成24年12月分）

平成25年3月4日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

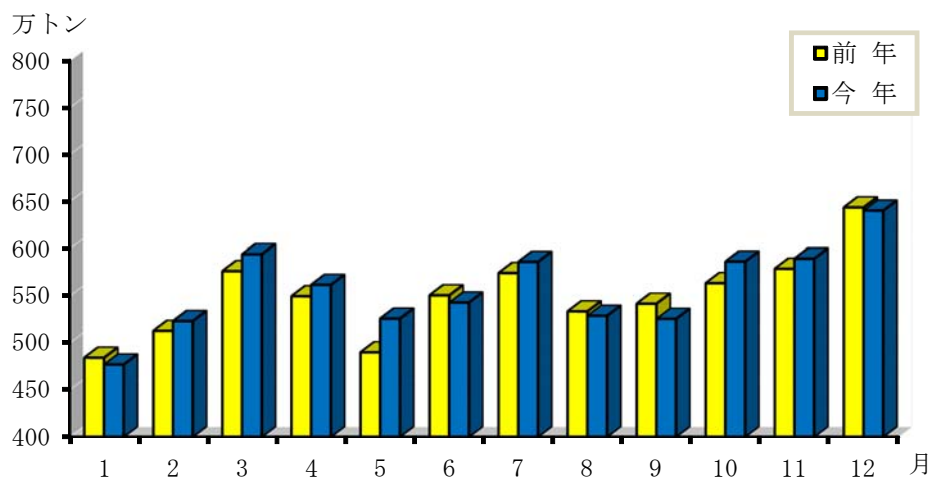
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象25社の本月の輸送量は、6,406,121トンで、前月と比べ総輸送量が約507千トン増加したため、前月比108.6%（季節調整済み100.8%）となり、前年同月との比較では、約34千トン減少したため、前年同月比99.5%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.1日で、前月と比べ0.6日減少し、前年同月との比較では、1.2日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、289,870トンで、前月と比べ約30千トン増加したため、前月比111.5%となり、前年同月との比較では、約12千トン増加したため、前年同月比104.4%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



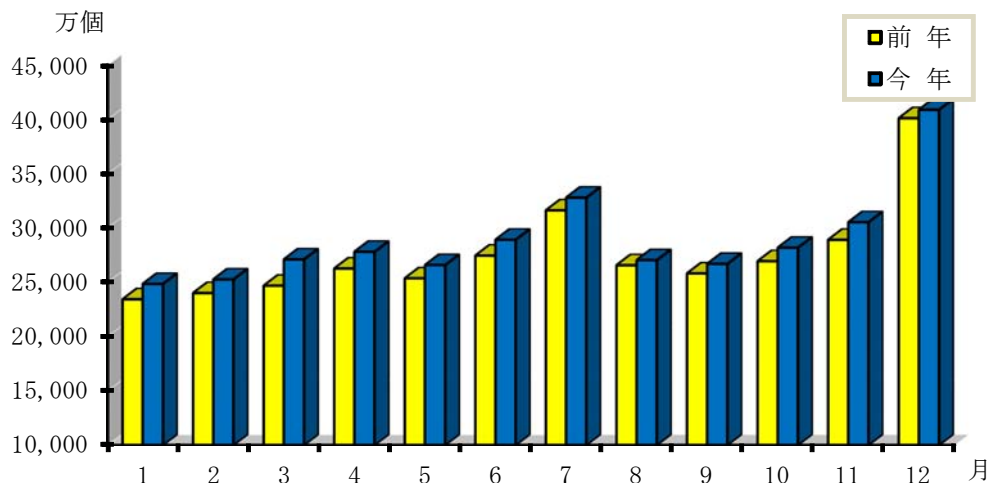
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



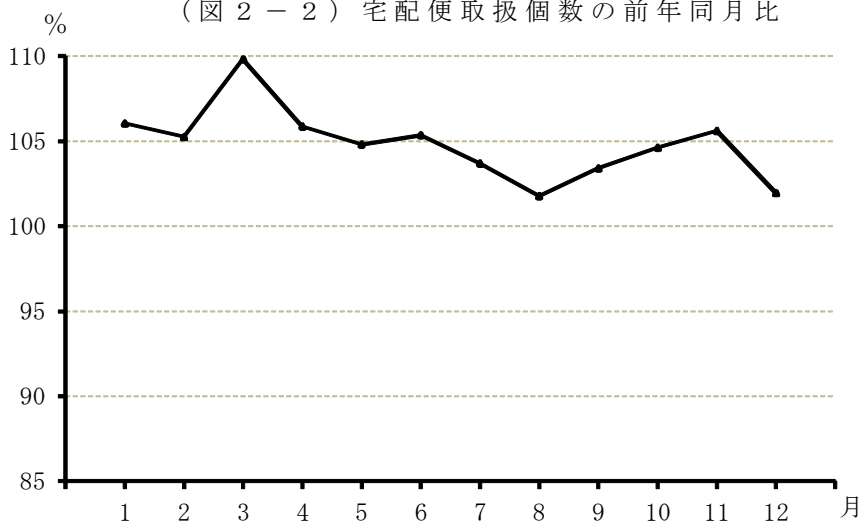
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、409,118 千個で、前月と比べ 約 103,609 千個増加したため、前月比 133.9%(季節調整済み 97.4%)となり、前年同月との比較では、約7,806 千個増加したため、前年同月比 101.9%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「食料工業品」、「日用品」及び「その他」を除き、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が「金属製品」、「機械」で見られた。「金属製品」の主な減少地域は北陸信越で、「機械」の主な減少地域は近畿であった。一方、「食料工業品」は、工場・生産地からの貨物増や倉庫から出る貨物増を要因として輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。主な増加地域は関東、北陸信越であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物減を要因として、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。「金属製品」の主な減少地域は関東で、「機械」の主な減少地域は大阪、近畿、中国であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 ら ず	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	1		12	4	1	野菜、果物		
	金属製品		1	15	5			北陸信越	4
	機 械			15	5			近畿	4
	化学工業品		1	17	4				
	繊維工業品			20	2				
	食料工業品	1	6	12	1		製造食品	関東、北陸信越	4, 7
	日 用 品		4	14	4				
	そ の 他	3		11	5				
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1		13	3	1			
	金属製品			14	6	1		関東	4
	機 械			12	8		機械部品	大阪、近畿、中国	4
	化学工業品	1	3	12	6		合成樹脂		4
	繊維工業品			16	5	1			4
	食料工業品	1	2	15	2		製造食品		
	日 用 品		4	14	4				
	そ の 他	1	2	10	2	4	その他(百貨店配送品)		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者792社/調査対象事業者数1,067社)の輸送量は、前月比 100.4%、前年同月比 99.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.8 %	104.8 %	99.8 %	99.2 %	97.9 %	100.1 %	96.7 %	100.0 %	99.1 %	94.2 %	91.5 %	
前 月 比	100.4 %	99.4 %	99.4 %	101.6 %	96.2 %	98.3 %	98.3 %	105.4 %	106.7 %	101.6 %	102.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比99.4%、対前年同月比104.8%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「食料工業品」、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物増等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他の農産品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場、生産地からの貨物減により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比99.4%、対前年同月比99.8%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「食料工業品」、「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減や工場・生産地からの貨物減等により「穀物」、「野菜・果物」、「金属製品」、「その他の製造工業品」が、建設関連の需要減等により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比で101.6%、対前年同月比99.2%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」、「紙・パルプ」、「食料工業品」が、建設関連の需要増により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比96.2%、対前年同月比97.9%であった。品目別では、季節的需要増等により「水産品」、「その他石油製品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響等により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要減等により「野菜・果物」が、輸出入貨物の減等により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比98.3%、対前年同月比100.1%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「機械」が、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「砂利・砂・石材」、「紙・パルプ」が、建設関連の需要減により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比98.3%、対前年同月比96.7%であった。品目別では、輸出入貨物の増等により「機械」が、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」が、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比105.4%、対前年同月比100.0%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「紙・パルプ」が、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「その他の化学工業品」、「食料工業品」、「輸送用容器」、「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「木材」が、工場・生産地からの貨物減等により「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「機械」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比106.7%、対前年同月比99.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「機械」が、デパート・スーパーからの貨物増により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比101.6%、対前年同月比94.2%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「畜産品」、「水産品」、「食料工業品」、「日用品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「鉄鋼」が、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比102.8%、対前年同月比91.5%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増等により「日用品」、「鉄鋼」、「食料工業品」が、輸出入貨物の増等により「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「機械」が、季節的需要減により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			越							計
1. 穀物	増	1	1					1	2			5
	減		3							1		4
2. 野菜・果物	増	1						1	7	7		16
	減	5	4		2	1		1		1		14
3. その他の農産品	増	2							1	2	1	6
	減	7						1				8
4. 畜産品	増									3		3
	減	1										1
5. 水産品	増	2	1		3	1				2		9
	減	1	1									2
6. 木材	増		2					1		2	2	7
	減	2	1		1			2	2			8
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1										1
	減		1		1							2
9. 金属鉱物	増											
	減				1			1				2
10. 砂利・砂・石材	増	2						2	1	2		7
	減	9	1			2		5		1		18
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1					1	3			6
	減		1						1		1	3
12. 鉄鋼	増					1			3	3	2	9
	減			1	1	1		1	1	2		7
13. 非鉄金属	増							1				1
	減							1				1
14. 金属製品	増			1	1		1	1		3		7
	減		3		1		2	2		2		10
15. 機械	増				1	3	3	2	4	1		14
	減		2	1	2	1	1	3	2	1	1	14
16. セメント	増	1	1		1	1		3	1	4		12
	減	3	2			2		1		1		9
17. その他の窯業品	増	1						1		1		3
	減				4	1	1	1				7

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				1			1				2
	減											
19.その他の石油製品	増	10	2	1	3		1	2	3	4		26
	減	1							1			2
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増	1	1				1	1	1			5
	減						1		1			2
22.化 学 肥 料	増				1			1	1			3
	減	1			1					1		3
23.その他の化学工業品	増	1			1			5				7
	減				1			1	1	1		4
24.紙 ・ パ ル プ	増		1	1			2	2	1	1		8
	減		1		1	1	1	1	1	1		7
25.織 維 工 業 品	増								1			1
	減				1							1
26.食 料 工 業 品	増	4	5	1	3	2	3	4	1	10	1	34
	減		1				1	4	1	2		9
27.日 用 品	増	1	1				3	1	2	6	3	17
	減		1		1		1			1		4
28.その他の製造工業品	増					1		1	1	1		4
	減		2		1	2		1		1		7
29.金 属 く ず	増											
	減											
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	6	1					2	1	4		14
	減		1	1				2		3		7
32.廃 棄 物	増	13						2	1	1		17
	減	1	2					2				5
33.輸 送 用 容 器	増				1			2			1	4
	減									1		1
34.取 り 合 せ 品	増		4					4		4	1	13
	減	1	2					2	1			6
35.そ の 他	増		2	2	5		4			3		16
	減		1	1	3		2		2			9